作品賞　JR 東日本 ホテルメッツ札幌

建物外観（提供：大成建設(株)）

建築概要

建 設 地：札幌市北区北７条西２丁目
建 築 主：株式会社　YRE マネジメント
設　　計：大成建設株式会社一級建築士事務所
施　　工：大成建設株式会社札幌支店
建築面積：606m²　延床面積：6,175m²
階　　数：地上 13 階、地下一階　高さ：43.6 m
構造種別：RC 造

選評

柱・梁型のない部屋を設計したいという願望は建築家なら誰もが抱く永遠のテーマであろう。なぜ建築家は柱・梁型を嫌うのか考えてみると、コンパクトな部屋では人間の振る舞いを基にした身体的な寸法体系とは別の論理で現れる架構スケールと折り合いをつけるのが難しく、概して柱梁は邪魔物扱いされる。しかも、高層建物で柱・梁型を排除するのは非常に難しい。それを本作品は基礎免震を採用することで、壁と床による明快な構造体を用いて実現した。免震構造の採用は安全な都市づくりへの意識が高いクライアントの要望であり、正確には免震構造の特性を活かして成立させた架構デザインという説明の方が適切であり、まさしく本作品賞にふさわしいプロジェクトである。

スレンダーな構造体はそのままインテリアに現れ、透明感溢れる軽快なファサードにも反映されている。コーナーを開放的にするために 300 φの Pca 超高強度細柱の採用や、細やかに積雪対策を施した端正なディテールなど隅々まで設計者のこだわりが貫かれている。この構造形式は汎用性が高いことや事務所や住宅など将来的な用途転用も見据えて計画しているという説明にも説得力があった。審査員全員から高い評価を得て受賞に至った作品である。　（下吹越武人）

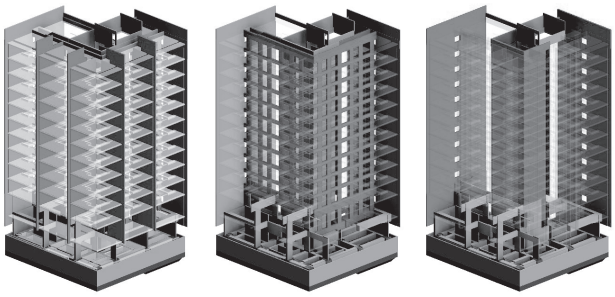
建　築　主：株式会社YREマネジメント　高宮敏郎
設　計　者：大成建設株式会社　中藤泰昭、藤山淳司
施　工　者：大成建設株式会社　島津幸二
材料開発者：大成建設株式会社　山本佳城

免震・制振化した経緯及び企画設計等

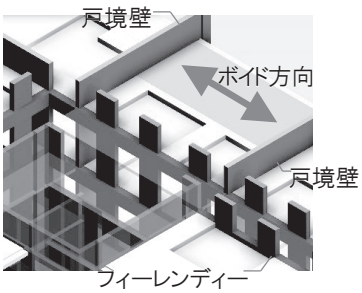
剛な上部構造と柔らかい免震構造の組み合わせは、上部構造の揺れを最小限に抑えることができる最も理想的な構造システムの一つである。建築計画上必要となる間仕切り壁や外壁を壁柱構造として有効に利用することで極めて剛性の高い上部構造とし、L2 地震時に層間変形角を 1/1000 以下、応答加速度を 100gal 程度に抑える計画とした。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

基準階の客室レイアウトに合わせて井桁状に壁柱を配置し、客室内に柱型梁型の出ないプランを実現した。壁柱は①客室間の戸境壁、②客室と廊下の境界を利用したフィーレンディール架構、③コアを利用したコア壁、④妻面の外壁からなり、機能と構造の融合により豊富な壁量を確保した。また、客室エリアについては戸境壁（スパン 9m）と客室廊下間の境界壁で支持される３辺固定スラブ（300mm 厚の中空スラブ）によって外周に梁型の無い開放性の高い空間とし、建物コーナー部には 300N 級の超高強度コンによる細柱（φ 300mm）を採用し、浮遊感のあるファサードとした。以上の工夫により、フラットな構造体がそのままファサード・インテリアとなる、開放性の高い新しいホテルデザインを実現した。


①戸境　②フィーレンディール架　③コア壁、④妻壁

壁柱構造パース



客室の３辺固定スラブ